



履修要項

令和3年度 入学生用

Nagoya Women's University

名古屋女子大学 家政学部

目次

| | |
|--------------------------------------|-----------|
| はじめに | 3 |
| I. 単位制度について | 4 |
| II. 卒業要件について | 5 |
| ディプロマポリシー（学位授与の方針） | 5 |
| III. 教育課程 | 7 |
| カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針） | 7 |
| 全学共通科目 | 10 |
| 生活環境学科 | 11 |
| 1. 教育目的について | 11 |
| 2. 授業科目について | 11 |
| 3. 資格について | 12 |
| 3-1. 建築士・インテリアプランナー | 12 |
| 3-2. テキスタイルアドバイザー | 12 |
| 3-3. フードコーディネーター | 12 |
| 3-4. フードスペシャリスト | 12 |
| 3-5. 日商簿記検定 | 12 |
| 3-6. ファイナンシャルプランニング技能士 | 13 |
| 3-7. 情報処理士・上級情報処理士 | 13 |
| 3-8. ITパスポート | 13 |
| 4. 教育課程について | 14 |
| カリキュラムマップ | 17 |
| カリキュラムツリー | 18 |
| 教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法 | 21 |
| カリキュラムマップ | 22 |
| カリキュラムツリー | 23 |
| IV. 免許・資格 | 24 |
| 教員免許状 | 24 |
| 〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕 | 26 |
| 中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭) | 27 |
| 〔教科及び教科の指導法に関する科目〕 | 27 |
| 〔大学が独自に設定する科目〕 | 28 |
| 〔教育の基礎的理解に関する科目等〕 | 29 |
| V. 海外留学 | 30 |
| 「留学」について | 30 |

| | |
|--|----|
| VI. 履修の案内 | 31 |
| 1. 履修登録について | 31 |
| 2. 授業及び試験について | 33 |
| 授業 | 33 |
| 〔1〕授業の開講形態／〔2〕授業時間割／〔3〕授業・試験時間／〔4〕休講／〔5〕補講／ 〔6〕欠席・遅刻・早退 | |
| 試験 | 34 |
| 〔1〕試験の種類と方法／〔2〕期末試験／〔3〕追試験／〔4〕やむを得ない理由を証明する書類／〔5〕再試験／〔6〕追・再試験手続一覧／〔7〕受験資格／〔8〕受験時の諸注意（期末試験、追・再試験） | |
| 3. 成績について | 38 |
| 〔1〕成績の評価・単位の認定／〔2〕成績の通知／〔3〕成績の問い合わせ | |
| 4. GPAについて | 39 |
| 5. 単位互換制度について | 40 |
| 教務関係の用語 | 41 |

はじめに

大学は、小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、これまでのように指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たねばならないということです。その際にこの『履修要項』が大きな役割を果たすことと思います。卒業する時まで必要に応じて活用し、単位数が不足して卒業できないということのないよう十分注意してください。

まず最初に、単位制度と卒業要件の説明があります。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。また、修得した単位には、あらかじめ決められた必修科目と選択科目が含まれていなければ卒業できません。

次に教育課程（カリキュラム）が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画（シラバス）」とともに参考にしてください。免許や資格については、IV. 免許・資格 で、留学については、V. 海外留学 で詳しく説明しています。

それから、履修の案内があります。単位を修得するためには履修登録をしなければなりません。期日が決められている上、なかなか面倒な手続きです。この要項をよく読んで、提出期限に遅れたり、手続き方法を間違えたりしないよう十分注意してください。もし提出が遅れると授業が受けられません。そのほか、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず目を通しておいてください。

学生の皆さんは、卒業まではこの『履修要項』を座右において、必要に応じてこの冊子を活用するようにしてください。また十分理解できないときは学生支援センターでたずねてください。

I. 単位制度について

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて45時間の学修時間を必要とします。
- 3) 大学の授業時間は、通常45分を「1時間」の授業とみなし、「2時間」(=90分)の授業が基本の授業時間です。
- 4) 授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ1単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

講義科目 (1単位に必要な授業時間数は15時間)

- 1 単位の場合 (毎週2時間の授業)×7.5回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 4 単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

演習科目 (1単位に必要な授業時間数は30時間)

- 1 単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

実験・実習・実技科目 (1単位に必要な授業時間数は45時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ1、2に必要な授業時間数は30時間)

- 1 単位の場合 (毎週3時間の授業)×15回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週3時間の授業)×30回……………通年科目

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、「Ⅲ. 教育課程」の表を参照してください。
なお、半期科目、通年科目は次に示すとおりです。

半期科目(前期科目、後期科目)

前期または後期の半年間原則として授業を行い、半年ごとに単位認定をする科目

通年科目

1年間授業を行い、1年ごとに単位認定をする科目

Ⅱ．卒業要件について

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

家政学部

家政学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学位授与の規定は、学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、女性のもつ能力を活かした専門的職業人としての使命感や責任感が持てる人であることが重要です。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている人に学位を授与します。

生活環境学科

1 達成目標

住環境、衣環境、食環境とビジネスや情報等の知識や技術を習得しており、本学特有で伝統的な“生活科学・環境”に関する基本的思考力を身に付け、学問的に発展させ、その成果を社会に活かすことのできる人材となることを達成目標としています。

2 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

- ・知識・技能：生活を取りまく住・衣・食とビジネス・情報に関する環境の本質を理解できるような生活環境学に関する知識や技能を身に付けている。
- ・思考力・判断力・表現力：生活環境に関する問題を把握し、解決するための思考力と判断力を身に付け、生活環境に関する自分自身の考えを他の人々にもうまく伝えることができる表現力がある。
- ・主体性・多様性・協働性：自分の知識や技術を信じ、主体的に探究し続けることができる能力、そして、必要な使命感や責任感を持ち、自ら成長しようとする姿勢および態度を身に付けている。

大学を卒業するためには、4年以上在学し、学科ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 卒業に必要な単位数 |
|--|---------------|-------------------|
| | | 生活環境学科 |
| 全 学 共通科目 | 人 間 形 成 科 目 | 必修3単位を含めて、21単位以上 |
| | 一 般 教 育 科 目 | |
| | 芸 術 科 目 | |
| | 情 報 ・ 表 現 科 目 | |
| | 体 育 ・ 健 康 科 目 | |
| | 外 国 語 科 目 | 必修4単位を含めて、8単位以上 |
| 学 科 専 門 科 目 | | 必修22単位を含めて、75単位以上 |
| 自 由 選 択 科 目 (全学共通科目・学科専門科目) 単位互換科目 | | 20単位以上 |
| 合 計 | | 124単位以上 |

単位互換科目

県内すべての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づき他大学で単位互換向けに開放される科目及び、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」に基づき名古屋女子大学短期大学部で開放される科目を履修し、本学の単位として卒業要件の自由選択科目に算入できる制度があります。詳しいことは学生支援センターにお問い合わせください。名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度については40ページを参照してください。その他、他大学開放科目等、他大学が開放している授業科目で単位認定証明のあるものを含みます。

Ⅲ. 教育課程

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

家政学部

家政学部は、建学の精神であり、学園の信条である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成する」ことを第一の目的としています。この目的を達成するため、学部全体(学士課程)では、女性として活きたコミュニケーション能力をもち、それぞれの専門職におけるリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。まずは、学士力向上を目標とした教養科目、外国語科目などを他学部と共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。次に、家政学に関わる基礎科目を開設し、人間生活と環境の関係を科学的に追求することによって、快適な生活を送る能力や技術を身に付けることを目的とした専門科目を体系的に配置します。

生活環境学科

1 教育課程の編成目標

- (1) 住分野では、建築設計や建築計画など10領域を用意し、住環境における専門家として活躍できる能力を養います。
- (2) 衣分野では、人間に最も近い環境として被服を捉え、被服の材料から被服の製作・管理までの理論・技術をバランスよく習得し、ファッション業界のスペシャリストとして活躍できる能力を養います。
- (3) 食分野では、食品・栄養・調理を中心とした食に関する知識を習得し、外食産業界で活かせる感性、技術および企画力を身に付け、フードスペシャリストやフードコーディネーターとして活躍できる能力を養います。
- (4) ビジネス・情報分野では、これらの知識と技術を習得し、賢い消費者であるとともに、女性のより一層の社会進出を促進するためのキャリア能力を育成し、生活に関わる諸問題の解決能力を養います。

2 教育課程の編成と特色

(1) セメスター制とGPA

1. セメスター制を導入し、1年を前期、後期に分け、半期で完結する授業を行います。
2. これにより学生は、半期ごとに時間割を見直すことが可能となり、受講の選択の幅が広がることや、さらに意欲的な学修機会(留学や研修など)の組込みが可能となります。
3. GPAを活用して学生指導を適切に実施します。

(2) 共通科目の設定・充実

1. 学びの導入として、1年次に初年次セミナーと初年次演習、2年次に基礎ゼミを履修し、大学生活における学修の目標を見定めて専門科目を履修する目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。
2. 「人間形成」「一般教育」「外国語」「情報・表現」などのカテゴリーに分けた全学共通科目を配置します。

(3) 履修モデルの具体化

1. 「建築・インテリア」「ファッション」「フード」「ビジネス・情報」そして「教職」の履修モデルを設け、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーにより分かりやすく示しています。

2. 住環境分野、衣環境分野、食環境分野、ビジネス・情報分野に関わる2つ以上の分野に強い人材育成が可能な科目配置をおこないます。

①住居学に強く、二級建築士、一級建築士の受験資格を支援し、目標が達成できる科目配置

②衣環境に強く、2級テキスタイルアドバイザー等の資格取得支援のための科目配置

③食環境に強く、フードスペシャリストやフードコーディネーターの資格取得支援のための科目配置

④ビジネスや情報に強く、そのエキスパートとしての高い専門性と確かな技術の修得と専門資格取得支援のための科目設置

⑤家庭科教員（中学校・高等学校）となるための教職課程の設置と科目配置（オプション）

(4) 専門科目群

・基礎科目（必修10科目、選択12科目）：講義17科目、演習1科目、実習4科目

・建築・インテリア科目（選択38科目）：講義20科目、演習16科目、実験2科目

・ファッション・テキスタイル科目（選択18科目）：講義6科目、演習7科目、実験2科目、実習3科目

・栄養・フード科目（選択12科目）：講義5科目、演習4科目、実験1科目、実習2科目

・ビジネス・情報科目（選択15科目）：講義6科目、演習9科目

3 学修成果測定

・ルーブリックによる学修成果の可視化

・学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積

・家政学および生活環境学全般に関わる学修達成度調査、専門知識・技能に関する「卒業研究（発表・論文・制作）」の公表

4 学修環境

学修成果を生み出すために以下のような学修環境を提供します。

・スキル育成のための入門的な科目（初年次セミナー、初年次演習、基礎ゼミ、情報、語学など）

・演習・実験を通じ、内容の深い理解と体験

・異文化コミュニケーション（海外研修）

・少人数制を重視した教育（ゼミナールなど）

・各分野の社会における体験と就職活動のための状況認識（体験型学習プログラム）

・産学行政連携によるPBLなどのアクティブラーニングの実施

特に、理論から演習・実験という科目を通じて、内容の理解、体験、スキル獲得を行い、より高い技術を確実に身に付けることができます。また、3年次、4年次に「アカデミックスキルズ」「卒業研究」を連続履修して卒業論文（選択）を作成し、さらに、ディプロマポリシーに沿った資格取得支援プログラムも設けています。

- 教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目と学科専門科目にわけて編成されています。そしてそれぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目の区分には必修科目と選択科目があり、体系的に修得するように各年次に配当されています。授業科目を選択する場合は、系統図(カリキュラムツリー)をよく見て考えてください。例えば、科目間の矢印や、1や2と番号が振られている科目を2から先に選択すること、また、講義の前に演習や実習を選択することは避けてください。

必修科目

教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目

教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目

- 上記のほか各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、卒業の要件に含まれない科目もありますが、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。

全学共通科目

全学共通科目

| 授業科目 | 授業形態 | 単位数 | 週時間数 | | | | | | | | 教員免許状 | 情報処理士 上級情報処理士 | 備考 | | |
|---------|--------------------|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|-------|------------------|----|----|---|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | | | | | |
| | | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | 前期 | 後期 |
| 人間形成科目 | 建学のこころ | 講義 | 1 | | ○ | | | | | | | | | | |
| | 総合女性学 | 講義 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | キャリア入門 | 講義 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| 一般教育科目 | 哲学の方法 | 講義 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 心のしくみ | 講義 | 2 | | 2 | 2 | | | | | | | | | |
| | 文学の表現と鑑賞 | 講義 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 歴史に学ぶ | 講義 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 国際事情 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | |
| | 日本国憲法 | 講義 | 2 | | 2 | 2 | | | | | | ◎ | | | |
| | くらしの経済 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | |
| | 生活と地理 | 講義 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 数学の世界 | 講義 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 一般化学 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | |
| | 生命のしくみ | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | |
| | 生活の物理 | 講義 | 2 | | 2 | 2 | | | | | | | | | |
| 地球環境と人間 | 講義 | 2 | | 2 | 2 | | | | | | | | | | |
| 初年次セミナー | 講義 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 初年次演習 | 演習 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 芸術科目 | 音楽 | 演習 | 1 | | | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 美術 | 演習 | 1 | | | | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 書道 | 演習 | 1 | | | | 2 | 2 | | | | | | | |
| 外国語科目 | Basic English 1 | 演習 | 1 | | 2 | | | | | | | ◎ | | | |
| | Basic English 2 | 演習 | 1 | | 2 | | | | | | | ◎ | | | |
| | Advanced English 1 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | |
| | Advanced English 2 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | |
| | 総合英語 A-1 | 演習 | 1 | | 2 | | | | | | | ◎ | | | |
| | 総合英語 A-2 | 演習 | 1 | | 2 | | | | | | | ◎ | | | |
| | 総合英語 B-1 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | |
| | 総合英語 B-2 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | |
| | 初級フランス語 1 | 演習 | 1 | 2 | | 2 | | | | | | | | | 「初級フランス語2」または「初級中国語2」は、「初級フランス語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」または「初級中国語1」が「失格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。 |
| | 初級フランス語 2 | 演習 | 1 | | 2 | 2 | | | | | | | | | |
| 中級フランス語 | 演習 | 1 | | | 2 | 2 | | | | | | | | | |
| 初級中国語 1 | 演習 | 1 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | |
| 初級中国語 2 | 演習 | 1 | | 2 | 2 | | | | | | | | | | |
| 中級中国語 | 演習 | 1 | | | 2 | 2 | | | | | | | | | |
| 情報・表現科目 | 情報処理演習 1 | 演習 | 1 | 2 | | | | | | | | ◎ | ◎ | | |
| | 情報処理演習 2 | 演習 | 1 | | 2 | | | | | | | ◎ | ◎ | | |
| | 日本語表現法 1 | 演習 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | |
| | 日本語表現法 2 | 演習 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | |
| 体育・健康科目 | 健康科学 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | |
| | スポーツ 1 | 実技 | 1 | 2 | | 2 | | | | | | ◎ | | | |
| | スポーツ 2 | 実技 | 1 | | 2 | 2 | | | | | | ◎ | | | |

- (注) 1. 教員免許状、情報処理士・上級情報処理士を取得するためには、◎印(必修)の単位を修得すること。
 2. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合があります。

1. 教育目的について

循環型社会（環境への負荷ができるかぎり低減される社会）における生活のあり方を探究し、住環境、衣環境、食環境とビジネス・情報の分野を主とした専門知識や技術を有する人材の育成を目的とします。

2. 授業科目について

4年間の履修を通して、生活とそれを取りまく近接環境について、住生活、衣生活、食生活、ビジネス・情報を家政学の視点から考察し行動できる力の養成をめざします。全学共通科目による豊かな教養の上に、学科専門科目で幅広い関連知識を学び、長寿社会や循環型社会等の言葉で表現されるこれからの時代を担い社会に貢献する意志と能力を育てます。さらに、卒業後専門としたい分野についてより深く学んでいくことや、関連する免許や資格の取得にもつながる科目が多数用意されています。

学科専門科目は、全員に関わる科目群と、希望する分野に関わる科目群とに分けられます。全員に関わる科目群は、家政学の諸分野や近接環境との関わりを総合的に捉え、どの専門分野をめざす場合にも履修することが望ましい基礎科目と経験を広めると同時に深く追究する姿勢を身につけるための卒業研究とで構成されています。希望する分野に関わる科目群は、建築・インテリア、ファッション・テキスタイル、栄養・フード、ビジネス・情報系科目です。

以下に、卒業後の進路や資格取得との関係を中心にAからFを示します。卒業要件と照らしながら、各自の履修計画を立ててください。なお、希望する免許・資格取得については、「IV. 免許・資格」を参照してください。

- A. 建築・インテリア：卒業と同時に国家資格である一級・二級建築士受験資格を取得する。更に最短2年の実務経験で一級建築士免許登録資格を取得するなどして、住宅産業・建築設計・建設・インテリア・リフォーム・家具業界等での活躍をめざす。関連してインテリア系諸資格や商業施設士等の取得をめざす。
- B. ファッション・テキスタイル：テキスタイルアドバイザーの資格を取得するとともに色彩検定、カラーコーディネーター検定、ファッションビジネス能力検定などアパレル関係の諸種の資格を取得し、繊維・ファッション関連業界への就職をめざす。
- C. 栄養・フード：フードスペシャリストとフードコーディネーター3級の資格を取得し、調理・食品・栄養・フードコーディネート等についての知識と実践的技術を身につけ、食品流通や外食産業関連業界への就職をめざす。また、教職希望者については食生活に関する知識と技術を修得する。
- D. ビジネス：日商簿記やファイナンシャルプランニング技能士などビジネス関係の資格を取得し、就職に強いキャリアアップの基盤を修得するとともに賢い消費者となるための幅広い知識を深める。
- E. 情報：上級情報処理士、情報処理士、ITパスポートなど情報関係の資格取得をめざす。
- F. 教職：衣食住をはじめ家政学の諸分野に関する幅広い知識を深め、中学校教諭一種(家庭)・高等学校教諭一種(家庭)の免許状を取得する。

3. 資格について

3-1. 建築士・インテリアプランナー

建築士は国家資格であり、設計事務所・住宅産業・建設業等において、建築物の設計・監理や工事管理・法令に基づく申請等を行うために必要とされる、建築士法に定められた免許です。

インテリアプランナーは、公益財団法人建築技術教育普及センターが認定する資格で、オフィス、店舗、住宅等のインテリアデザインを行います。

必要な40単位を修得して卒業した場合、卒業後すぐに一級・二級建築士試験受験資格、インテリアプランナー登録資格が得られます。

必要な40単位(◎)を修得して卒業した場合、二級建築士試験合格後すぐに免許登録ができますが、一級建築士の場合は試験合格してもすぐに免許登録ができません。

一級建築士の場合は、試験合格の他に実務経験が必要となります。必要な40単位(◎)を修得して卒業した場合は「卒業後実務経験4年」で免許登録が可能です。上記40単位(◎)に加え、必要な10単位(○)を修得して卒業した場合(◎+○ 50単位)は「卒業後実務経験3年」で免許登録が可能です。また、上記40単位(◎)に加え、必要な20単位(○)を修得して卒業した場合(◎+○ 60単位)は「卒業後実務経験2年」で免許登録が可能です。

3-2. テキスタイルアドバイザー

テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)は、繊維・ファッションの分野で製品の幅広い専門知識や技術を発揮して消費者ニーズを満たすスペシャリストです。企業内では商品の研究・開発・品質管理・販売・仕入等、消費者の側からはコンサルタントとして教育的立場の仕事等と幅広い活動分野があります。

必要な単位を修得すると卒業時に、一般社団法人日本衣料管理協会が認定する衣料管理士(2級)資格を取得できます。

3-3. フードコーディネーター

フードコーディネーターの資格は3級から1級まであり、この資格は食の現場や経営サイドで活躍できる食のプロ養成を目指した資格です。フードコーディネーターの食産業における活動範囲は、「食の商品開発」「レストランプロデュース」「食のイベント・メディア」の3分野を柱に、食品・飲料メーカーをはじめ、流通、マスコミ、ホテル&レストラン、産地(生産者)、教育など、フードビジネスのあらゆる分野にわたります。必要な単位を修得して、資格申請すると2年次の終了までに3級の資格取得ができます。さらに3級資格取得後は2級試験対策科目である推奨科目を履修して、2級試験に備えることができます。

3-4. フードスペシャリスト

フードスペシャリストは、豊かな専門知識をベースに「食」に関する情報を提供する専門家です。食品メーカーにおいて食品の鑑別・管理・販売・消費者への情報提供・相談業務等を担当したり、スーパーマーケット・デパートなどの販売店、ホテル、レストラン等において提供する側と消費する側の調整を図るスペシャリストです。

必要な単位を修得し認定試験に合格すると卒業時に、農林水産省監督のもとに社団法人日本フードスペシャリスト協会が認定する、フードスペシャリスト資格を取得できます。

3-5. 日商簿記検定

日本商工会議所の簿記検定試験は、「商工会議所法」という法律に基づいて実施している「公的試験」です。企業が必要とする人材の育成を目的に実施しており、多くの企業から高い評価と信頼を得ています。資

格取得を通じて、ビジネス実務に直結する知識やスキルの実務能力を磨きキャリアアップにつなげてください。簿記の資格は、経理や財務、一般事務職などへの就職・転職や起業の際に有利な資格です。また、おカネの流れは企業経営の土台となるため、近年では、経理・財務担当以外でも必要な知識として評価する企業が増えてきています。生活環境学科では、△の印が付けられた科目において、資格取得のための指導をおこなっています。

3-6. ファイナンシャルプランニング技能士

ファイナンシャルプランニング技能士は、顧客の家族構成・収支・資産状況などのデータをもとに、顧客のライフプラン上の目的(夢・希望)を達成するために、金融・税金・社会保険・民間保険・不動産・相続といった人生には欠かせないことについて、総合的に生活設計のプランニングを行ない、その実行を支援していく専門家です。この資格は就職対策に有効であり、特に金融関連の業界や仕事を希望する人は取得しておいた方が好ましい資格です。生活環境学科では△の印が付けられた科目を通じて、ファイナンシャルプランニング技能士の資格取得をサポートしていきます。

3-7. 情報処理士・上級情報処理士

情報処理士・上級情報処理士とは、情報処理技術、ビジネスで活用されるソフトウェア技能、プレゼンテーション能力、および、オフィスの組織や情報の流れを活用するための基礎、応用を身につけた者に与えられる資格で、社会での活躍が期待されています。

・情報処理士

生活環境学科の一覧表で、情報処理士欄に◎の印がつけられた「情報科学概論」、「ホームページ作成演習」、その他の「情報処理士」に必要な単位を修得した学生には、全国大学実務教育協会の「情報処理士の認定資格」が与えられます。

・上級情報処理士

生活環境学科の一覧表で、上級情報処理士欄に◎の印がつけられた「ITテクノロジー論」、「情報科学概論」、「ホームページ作成演習」、「ソフトウェア開発演習1」、その他の「上級情報処理士」に必要な単位を修得した学生には、全国大学実務教育協会の「上級情報処理士の認定資格」が与えられます。

協会への認定証交付申請手続きは本学から一括して行い、認定登録に関わる費用を指定期限内に納めれば、認定書を卒業式当日にお渡しします。

3-8. ITパスポート

ITパスポートは、情報処理技術者試験の分野において経済産業省が認定する12種類の国家資格の一つです。ITパスポートは、これら12種類の中でも入門的な位置付けの資格です。情報化社会の中で働く人が備えておきたい知識を持っていることの証明、即ち、職業人のパスポートとして通用する資格という意味が「ITパスポート」という名前に込められています。ITを最大限に生かした付加価値の高い仕事をする職業人を目指す人のための資格です。試験では、ITや経営、業務分析に関する基礎的な知識が問われます。国家資格ですので、大学外に試験を受けに行く必要がありますが、生活環境学科の一覧表においてITパスポート欄に△の印が付けられた「ITテクノロジー論」、「ITマネジメント論」、「ITストラテジ論」、「ソフトウェア開発演習1」などの授業が、ITパスポート資格取得をサポートします。

4. 教育課程について

生活環境学科 専門科目

生活環境学科

| 授業科目 | 授業形態 | 単位数 | 週 時 間 数 | | | | | | | | 免許・資格 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----------------|-----|---------|---|----|---|----|---|----|---|-------|-------|-------------|------------|--------|-------|-------|---------|---------|------|------|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 建築士 | 衣料管理士 | フードコーディネーター | フードスペシャリスト | 日商簿記検定 | FP技能士 | 情報処理士 | 上級情報処理士 | ITパスポート | 中一種免 | 高一種免 | | | | | | | |
| | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎科目 | 家庭生活学 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 政治と経済 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 学際関係 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 概環境学 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 環境学 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 色彩学 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 保育学(実習含む) | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 居住学(製図を含む) | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 生活工学(家庭電気機械を含む) | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 衣食生活論 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 被服学 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 被服構成実習 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 被服構成実習 | 実習 | 1 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 被服構成実習 | 実習 | 2 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 食品学 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 栄養学 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調理学実習 | 実習 | 1 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調理学実習 | 実習 | 2 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 消費者調査 | 演習 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報処理概論 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門科目 | インテリアデザイン | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | インテリア材料 | 講義 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | インテリアデザイン演習1 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | インテリアデザイン演習2 | 演習 | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築基礎製図 | 演習 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築基礎製図 | 演習 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住居福祉論 | 講義 | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住居福祉学 | 講義 | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅デザイン1 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅デザイン2 | 講義 | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅デザイン演習1 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅デザイン演習2 | 演習 | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅デザイン演習3 | 演習 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅デザイン演習4 | 演習 | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築計画演習1 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築計画演習2 | 演習 | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築計画演習3 | 演習 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築計画演習4 | 演習 | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築都市計画 | 講義 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築C A D演習1 | 演習 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築C A D演習2 | 演習 | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築C A D演習3 | 演習 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築C A D演習4 | 演習 | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築設備 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築設備 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅関連法規 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅関連法規 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築造材力学 | 講義 | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築造材力学 | 講義 | 2 | | | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築一般構造 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築一般構造 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住宅施設施工 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築構造材料実験 | 実習 | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築構造材料実験 | 実習 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー（学位授与の方針）と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

〈生活環境学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標 (学修成果目標)

DP: ディプロマポリシー

| | |
|--------------|--|
| ①知識・技能 | ①DP1 生活をとりまく住・衣・食に関する環境の本質を理解できるような生活環境学に関する基礎知識や技能を身に付けている |
| ②思考力・判断力・表現力 | ②DP2 生活環境に関する問題を把握し、論理的かつ総合的に解決するための思考力と判断力を身に付け、自分自身の考えを他の人々にもうまく伝えることができる表現力がある |
| ③主体性・多様性・協働性 | ③DP3 自分の知識や技能を信じ、主体的に探究し続けることができる能力、そして、必要な使命感や責任感を持ち、自ら成長しようとする姿勢および態度を身に付けている |

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

| 学年 | 期 | 科目名 | ① | ② | ③ |
|--------------|----------|------------------|---|---|---|
| 1 | 前期 | 建学のこころ | | ○ | ◎ |
| | | 初年次セミナー | ◎ | ○ | |
| | | Basic English 1 | ◎ | ○ | |
| | | 総合英語A-1 | ◎ | ○ | |
| | | 情報処理演習1 | ◎ | ○ | |
| | | 日本語表現法1 | ◎ | ○ | |
| | | 家政学概論 | ◎ | ○ | |
| | | 生活と環境 | ◎ | ○ | |
| | 後期 | 家庭経済学 | ◎ | ○ | |
| | | 家族関係学 | ◎ | ○ | |
| | | 住居学(製図を含む) | ◎ | ○ | |
| | | 生活工学(家庭電気・機械を含む) | ◎ | ○ | |
| | | 衣生活論 | ◎ | ○ | |
| | | 食生活論 | ◎ | ○ | |
| | | 情報処理概論 | ◎ | ○ | |
| | | 建築基礎製図1 | ◎ | ○ | |
| 1・2 | 住宅デザイン1 | ◎ | ○ | | |
| | 衣環境学 | ◎ | ○ | | |
| | 調理学 | ◎ | ○ | | |
| | 簿記演習1 | ◎ | ○ | | |
| | 国際事情 | ◎ | ○ | | |
| | くらしの経済 | ◎ | ○ | | |
| | 一般化学 | ◎ | ○ | | |
| | 生命のしくみ | ◎ | ○ | | |
| | 初級フランス語1 | ◎ | ○ | | |
| | 初級中国語1 | ◎ | ○ | | |
| 健康科学 | ◎ | ○ | ○ | | |
| 1 | 前期 | スポーツ1 | ◎ | ○ | ○ |
| | | 初年次演習 | ◎ | ○ | |
| | | Basic English 2 | | ◎ | ○ |
| | | 総合英語A-2 | | ◎ | ○ |
| | | 情報処理演習2 | ◎ | ○ | |
| | | 日本語表現法2 | ◎ | ○ | |
| | | 色彩学 | ◎ | ○ | ○ |
| | | 保育学(実習及び家庭看護を含む) | ◎ | ○ | |
| | 後期 | 被服科学 | ◎ | ○ | |
| | | 被服構成学 | ◎ | ○ | |
| | | 食品学総論 | ◎ | ○ | |
| | | 調理学実習1 | ◎ | ○ | ○ |
| | | インテリアデザイン | ◎ | ○ | |
| | | 建築基礎製図2 | ◎ | ○ | |
| | | 住宅デザイン2 | ◎ | ○ | |
| | | ファッションドローイング | ◎ | ○ | |
| 1・2 | 情報科学概論 | ◎ | ○ | | |
| | 簿記演習2 | ◎ | ○ | | |
| | 総合女性学 | | ◎ | ○ | |
| | キャリア入門 | ◎ | ○ | ◎ | |
| | 心のしくみ | ◎ | ○ | | |
| | 日本国憲法 | ◎ | ○ | | |
| | 生活の物理 | ◎ | ○ | | |
| | 地球環境と人間 | ◎ | ○ | | |
| | 初級フランス語2 | | ◎ | ○ | |
| | 初級中国語2 | | ◎ | ○ | |
| スポーツ2 | ◎ | ○ | ◎ | | |
| 異文化コミュニケーション | | ◎ | ◎ | | |

| 学年 | 期 | 科目名 | ① | ② | ③ |
|-------|------------------|--------------------|---|---|---|
| 2 | 前期 | Advanced English 1 | ◎ | ◎ | |
| | | 総合英語B-1 | ◎ | ◎ | |
| | | 住生活論 | ◎ | ○ | |
| | | 被服構成実習1 | ◎ | ○ | ○ |
| | | 栄養学 | ◎ | ○ | |
| | | 調理学実習2 | ◎ | ○ | ◎ |
| | | インテリア材料 | ◎ | ○ | |
| | | 居住福祉論 | ◎ | ○ | |
| | 後期 | 住宅デザイン演習1 | ◎ | ◎ | |
| | | 建築計画1 | ◎ | ○ | |
| | | 建築CAD演習1 | ◎ | ◎ | |
| | | 構造力学1 | ◎ | ○ | |
| | | テキスタイル材料学 | ◎ | ○ | ○ |
| | | パターンメイキング | ◎ | ○ | |
| | | アパレルデザイン論 | ◎ | ◎ | |
| | | 色彩学演習1 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2・3 | 食品衛生学 | ◎ | ○ | | |
| | ファイナンシャルプランニング論 | ◎ | ○ | | |
| | ソフトウェア開発演習1 | ◎ | ◎ | | |
| | ITテクノロジー論 | ◎ | ◎ | | |
| | 基礎ゼミ | ◎ | ○ | ◎ | |
| | 哲学の方法 | ◎ | ○ | | |
| | 文学の表現と鑑賞 | ◎ | ○ | | |
| | 生活と地理 | ◎ | ○ | | |
| | 音楽 | ◎ | ○ | | |
| | 中級フランス語 | ◎ | ◎ | | |
| 中級中国語 | ◎ | ◎ | | | |
| 2 | 前期 | Advanced English 2 | | ◎ | ○ |
| | | 総合英語B-2 | | ◎ | ○ |
| | | 被服構成実習2 | ◎ | ◎ | ○ |
| | | インテリアデザイン演習1 | ◎ | ◎ | |
| | | 住生活史 | ◎ | ○ | |
| | | 住宅デザイン演習2 | ◎ | ◎ | |
| | | 建築計画2 | ◎ | ○ | |
| | | 建築CAD演習2 | ◎ | ◎ | |
| | 後期 | 建築材料学 | ◎ | ○ | |
| | | 構造力学2 | ◎ | ○ | |
| | | テキスタイル材料学実験 | | ◎ | ◎ |
| | | アパレルCAD演習 | ◎ | ◎ | |
| | | 色彩学演習2 | ◎ | ◎ | ○ |
| | | 食空間とテーブルコーディネート | ◎ | ◎ | |
| | | フードマネジメント論 | ◎ | ○ | |
| | | メニュープランニング実習 | | ◎ | ◎ |
| 2・3 | フードコーディネート論 | ◎ | ○ | | |
| | ファイナンシャルプランニング演習 | ◎ | ○ | | |
| | ホームページ作成演習 | ◎ | ◎ | | |
| | ソフトウェア開発演習2 | | ◎ | ○ | |
| | ITマネジメント論 | ◎ | ◎ | | |
| | 歴史に学ぶ | ◎ | ○ | | |
| | 数学の世界 | ◎ | ○ | | |
| | 美術 | ◎ | ○ | | |
| | 書道 | ◎ | ○ | | |

| 学年 | 期 | 科目名 | ① | ② | ③ |
|----|--------------|------------------|---|---|---|
| 3 | 前期 | 消費生活論 | ◎ | ○ | |
| | | 住居管理学 | ◎ | ○ | |
| | | 住宅デザイン演習3 | ◎ | ◎ | |
| | | 建築計画演習1 | ◎ | ◎ | |
| | | 建築CAD演習3 | ◎ | ◎ | |
| | | 建築設備1 | ◎ | ○ | |
| | | 住宅関連法規1 | ◎ | ○ | |
| | | 建築一般構造1 | ◎ | ○ | |
| | 後期 | 建築構造材料実験1 | | ◎ | ◎ |
| | | 被服整理学 | ◎ | ○ | ○ |
| | | 染色加工学 | ◎ | ○ | |
| | | アパレル生産実習 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | ファッションビジネス概論 | ◎ | ◎ | ○ |
| | | 食物学実験 | | ◎ | ◎ |
| | | 食品官能評価・鑑別1 | | ◎ | ◎ |
| | | ファイナンシャルプランニング実践 | ◎ | ○ | |
| 3 | マルチメディア演習 | ◎ | ◎ | | |
| | コンピュータデザイン演習 | ◎ | ◎ | | |
| | ITストラテジ論 | ◎ | ◎ | | |
| | キャリアデザイン演習1 | | ◎ | ◎ | |
| | インテリアデザイン演習2 | ◎ | ◎ | | |
| | 住宅デザイン演習4 | ◎ | ◎ | | |
| | 建築計画演習2 | ◎ | ◎ | | |
| | 建築CAD演習4 | ◎ | ◎ | | |
| | 建築設備2 | ◎ | ○ | | |
| | 建築一般構造2 | ◎ | ○ | | |
| 4 | 前期 | 建築構造材料実験2 | | ◎ | ◎ |
| | | 被服整理学実験 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 染色加工実習 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | アパレル造形演習 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 食品官能評価・鑑別2 | | ◎ | ◎ |
| | | フードスペシャリスト論 | ◎ | ○ | |
| | | キャリアデザイン演習2 | | ◎ | ◎ |
| | | アカデミックスキルズ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 後期 | 消費者調査法 | | ◎ | ◎ |
| | | 建築計画演習3 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 4 | 前期 | 建築計画演習4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 都市計画 | ◎ | ○ | |
| | | 住宅関連法規2 | ◎ | ○ | |
| | | 住宅施工 | ◎ | ○ | |
| | | アパレル企画演習 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 和装学実習 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 食の商品開発とイベント演習 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 製菓・製パンとカフェ | | ◎ | ◎ |
| | 後期 | 生活情報論 | | ◎ | ○ |
| | 通年 | 卒業研究 | ◎ | ◎ | ◎ |

*教育の基礎的理解に関する科目等、各教科の指導法の到達目標は、「履修要項」(P22)を参照

〈生活環境学科〉カリキュラムツリー

ツリーの見方

- (1) *印の科目はいずれかの学年で履修できる。
- (2) 科目名に記載の①②③は①D P 1、②D P 2、③D P 3を示す。
- (3) コシック体は資格必修科目、斜体は資格選択科目(建築士1級は選択必修科目) なお、科目名に記載されているa-cは食の資格関連科目を示す。a フードコーディネーター3級、b フードコーディネーター2級、c フードスペシャリスト
- (4) 資格関連の推奨科目については「履修要項」を参照のこと。
- (5) 科目間の→は履修順序を示す。(逆方向の履修は控える)

| 科目分類 | 1 年 | | 2 年 | | 3 年 | | 4 年 | | 到達目標 |
|--------|---|---|--|---|----------------------------------|----------------------|-----|----|--|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 人間形成 | ③建学のこころ ③キャリア入門* | ②総合女性学* ③キャリア入門* | ②総合女性学* ③キャリア入門* | ②総合女性学* ③キャリア入門* | | | | | ◇人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報、情操、表現、体育・健康科目から幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付けている。 ◇専門科目の学修の基礎作りとなる知識や技能を身に付けている。 |
| 一般教育 | ①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①くらしの経済* | ①日本国憲法* ①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間* | ①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①哲学の方法* ①生活と地理* ①くらしの経済* | ①日本国憲法* ①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間* ①歴史に学ぶ* ①数学の世界* | ①哲学の方法* ①生活と地理* ②文学の表現と鑑賞* | ①歴史に学ぶ* ①数学の世界* | | | |
| 芸術 | ①初年次セミナー | ②初年次演習 | ①音楽* | ①書道* ①美術* | ①音楽* | ①書道* ①美術* | | | |
| 全学共通科目 | ①Basic English 1 ①総合英語A-1 → ①初級フランス語1* → | ②Basic English 2 ②総合英語A-2 ②初級フランス語2* | ②Advanced English 1 ②総合英語B-1 → ②初級フランス語1* → ②中級フランス語* | ②Advanced English 1 ②総合英語B-1 → ②初級フランス語2* ②中級フランス語* | ②文学の表現と鑑賞* | ②中級フランス語* ②中級中国語* | | | |
| 外国語 | ①初級中国語1* → ①情報処理演習1 → ①日本語表現法1 | ②初級中国語2* ①情報処理演習2 ②日本語表現法2 | ①初級中国語1* → ②中級中国語* | ②初級中国語2* ②中級中国語* | | | | | |
| 情報・表現 | ①健康科学* ①スポーツ1* → | ③スポーツ2* | ①健康科学* ①スポーツ1* → | ③スポーツ2* | | | | | |
| 体育・健康 | ①家政学概論 ①生活と環境 ①家庭経済学 ②家族関係学 (製図を含む) ①住居学 ①生活工学 (家庭電気・機械を含む) ①情報処理概論 ①衣生活論 ①食生活論 ^{ac} | ①体育学 (実習及び家庭看護を含む) ①色彩学 ①被服科学 ①被服構成学 → ①食品学総論 ^{ac} ①調理学実習1 ^{ac} → | ①被服科学 ①被服構成実習1 → ①栄養学 ^{ac} ①調理学実習2 ^{ac} | ①被服構成実習1 → ①被服構成実習2 ①栄養学 ^{ac} ①調理学実習2 ^{ac} | ①消費生活論 ②消費者調査法 | | | | ◇生活環境の領域に関する基礎的知識や技能を身に付けている。 ◇家政学に関する基礎知識や技能を身に付けている。 |
| 基礎科目 | | | | | | | | | |

教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法

| 授 業 科 目 | 授 業 形 態 | 単 位 数 | | 週 時 間 数 | | | | | | | | 備 考 | |
|---------|----------------------------------|-------|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| | | 必 修 | 選 択 | 1 年 | | 2 年 | | 3 年 | | 4 年 | | | |
| | | | | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | | |
| A | 教 育 原 理 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | |
| | 教 育 史 | 講義 | 2 | | 2 | | | | | | | | |
| | 教 師 論 | 講義 | 2 | | | | 2 | | | | | | |
| | 教 育 制 度 論 | 講義 | 2 | | | | 2 | | | | | | |
| | 教 育 心 理 学 | 講義 | 2 | | | | 2 | | | | | | |
| | 特 別 支 援 教 育 論 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | 教 育 課 程 論 | 講義 | 2 | 2 | | | | | | | | | |
| B | 道 徳 の 指 導 法 | 講義 | 2 | | | 2 | | | | | | | |
| | 総合的な学習の時間の指導法 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | 特 別 活 動 の 指 導 法 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | 教 育 の 方 法 と 技 術 | 講義 | 2 | | | | | 2 | | | | | |
| | 生 徒 指 導 の 理 論 と 方 法 (進路指導を含む) | 講義 | 2 | | 2 | | | | | | | | |
| | 教 育 相 談 (カウンセリングを含む) | 講義 | 2 | | | | | 2 | | | | | |
| C | 教 育 実 習 1 | 実習 | 2 | | | | | | | (4) | | | |
| | 教 育 実 習 2 | 実習 | 2 | | | | | | | (4) | | | |
| | 教 育 実 習 指 導 | 講義 | 1 | | | | | | 1 | | | | |
| | 教 職 実 践 演 習 (中・高) | 演習 | 2 | | | | | | | | | 4 | |
| D | 家 庭 科 教 育 法 1 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | 家 庭 科 教 育 法 2 | 講義 | 2 | | | | | | | 2 | | | |
| | 家 庭 科 教 育 法 3 | 講義 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | 家 庭 科 教 育 法 4 | 講義 | 2 | | | | | | | | | 2 | |
| | 家 庭 科 実 習 指 導 技 術 | 講義 | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | 家 庭 科 A・L 指 導 技 術 | 講義 | 2 | | | | | | | 2 | | | |

教育の基礎的理解に関する
科目等・各教科の指導法

(注) A 欄は「教育の基礎的理解に関する科目」

B 欄は「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

C 欄は「教育実践に関する科目」

D 欄は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」

※教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法の修得方法は、P.24～29を参照すること。

※教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法は、卒業に必要な単位には含めない。

(注) 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

〈家政学部 教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標（学修成果目標）

DP：ディプロマポリシー

| | |
|--|--|
| ①知識・技能 ②思考力・判断力・ 表現力 ③主体性・多様性・ 協働性 | ①DP1 教職に関する幅広い基礎知識と技能および、家庭科の専門的知識と技能を有し、授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 |
| | ②DP2 学校現場等で生じている問題や地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができ、理論と実践を結びつけることができる。 |
| | ③DP3 教育的愛情を持って児童・生徒に接することができ、対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。 |

科目別目標

| 学年 | 期 | 科目名 | ① | ② | ③ |
|----|----|---------------------|---|---|---|
| 1 | 前期 | 教育原理 | ○ | ◎ | |
| | | 教育課程論 | ◎ | ○ | |
| | 後期 | 教育史 | ◎ | | |
| 2 | | 生徒指導の理論と方法(進路指導を含む) | ○ | ◎ | |
| | 前期 | 教育制度論 | ◎ | ○ | |
| | | 教育心理学 | ◎ | ○ | |
| | | 道徳の指導法 | ◎ | | ○ |
| | 後期 | 教師論 | | ◎ | ○ |
| | | 教育の方法と技術 | ◎ | ○ | |
| | | 教育相談 (カウンセリングを含む) | ◎ | ○ | |

特に重点的に育成する能力＝◎、重点的に育成する能力＝○

| 学年 | 期 | 科目名 | ① | ② | ③ |
|----|----|---------------|---|---|---|
| 3 | | 特別支援教育論 | | ◎ | ○ |
| | 前期 | 特別活動の指導法 | ◎ | | ○ |
| | | 家庭科教育法1 | ◎ | ○ | |
| | | 家庭科実習指導技術 | ◎ | | ○ |
| | | 総合的な学習の時間の指導法 | ◎ | ○ | ○ |
| | 後期 | 教育実習指導 | | ○ | ◎ |
| 4 | | 家庭科教育法2 | ○ | ◎ | |
| | | 家庭科A・L指導技術 | ◎ | ○ | ○ |
| | 前期 | 教育実習1 | | ○ | ◎ |
| | | 教育実習2 | | ○ | ◎ |
| | | 家庭科教育法3 | ○ | ◎ | |
| | 後期 | 教職実践演習(中・高) | ○ | ○ | ◎ |
| | | 家庭科教育法4 | ○ | ◎ | |
| | | | | | |

〈家政学部 教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法〉カリキュラムツリー

ツリーの見方

科目間の→は履修順序を示す。(逆方向の履修は控える)
 ●：中学校教諭一種免許状(家庭) ○：高等学校教諭一種免許状(家庭)

| 科目分類 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 到達目標 |
|---|-------------------|----------------------------------|---|--|--|-----------------------|-------------------|--|---|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育原理●○ 教育課程論●○ | 教育史●○ 教育心理学●○ 教育制度論●○ | 教師論●○ 特別支援教育論●○ | | | | | | ◇教職の意義や教員の役割について理解し、教員の職務内容についての知識を身に付けている ◇特別な支援を要する児童・生徒への教育理論を修得する ◇教育の理念・歴史・思想について理解し、児童・生徒の心身の発達や学習の過程についての理論を修得する ◇教育課程の意義や編成の方法、教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する知識を身に付けている |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・各教科の指導法 | | 道徳の指導法● 生徒指導の理論と方法(進路指導を含む)●○ | 教育の方法と技術●○ 道徳の指導法● 教育相談(カウンセリングを含む)●○ | 家庭科 教育法1●○ 家庭科実習指導 技術●○ 特別活動の指導法●○ | 家庭科 教育法2●○ 家庭科A・L指導 技術●○ 総合的な学習の時間の指導法●○ | 家庭科 教育法3● 教育法4● | 家庭科 教育法4● | ◇家庭・道徳・特別活動・総合的な学習の時間についての指導法や情報機器及び教材の活用についての技術を身に付けている ◇生徒指導や進路指導及び教育相談についての理論や方法を身に付けている | |
| 教育実践に関する科目 | | | | | 教育実習指導●○ | 教育実習1●○ 教育実習2● | 教育実習1●○ 教育実習2● | ◇教育実習において教員として必要な実践的な技術を修得するとともに、教育実践演習において教職についての知識・技術の補完と統合を行い、教員として必要な最低限の資質を身に付けている | |

IV. 免許・資格

教員免許状

(教員免許状以外の資格については、P. 12～13を参照してください。)

〔1〕 本学で教員免許状授与の所要資格を取得できる免許状は次のとおりです。

| 学 科 | 免 許 状 の 種 類 |
|-------------|-----------------------------------|
| 生 活 環 境 学 科 | 中学校教諭一種免許状(家庭) 高等学校教諭一種免許状(家庭) |

〔2〕 教員免許状を取得するためには、基礎資格(下表)を有し、「教育職員免許法及び同法施行規則」に定められた科目を履修し、所定の単位数を修得しなければなりません。

- 1) 免許状の種類にかかわらず「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」について、それぞれ2単位以上を修得しなければなりません。(26ページ、表1)
- 2) 法により免許状の種類ごとに「教科及び教科の指導法に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」がそれぞれ規定されています。(下表)
免許状の種類ごとの履修方法を27ページ表2以降に掲載していますので、それに基づいて必要な科目及び単位数を修得してください。

| 免 許 状 の 種 類 | 基 礎 資 格 | 専 門 科 目 の 最 低 修 得 単 位 数 | | |
|-------------|-------------|-------------------------|--------------|-----------------|
| | | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 大学が独自に設定する科目 | 教育の基礎的理解に関する科目等 |
| 中学校教諭一種免許状 | 学士の学位を有すること | 28 | 4 | 27 |
| 高等学校教諭一種免許状 | | 24 | 12 | 23 |

(注) この表で示しているのは、法規上の最低修得単位数です。本学で必要とする単位数は27ページ以降の各表に示してあります。

〔3〕 その他

1) 教育実習の履修について

教育実習の単位修得には、「学校現場における実習」(高等学校は2単位、中学校は4単位)と「事前及び事後の指導」(1単位)が必要です。

事前及び事後の指導の授業科目として、「教育実習指導」を開講しています。

その授業内容は次のとおりです。

1. 事前指導
 - (1) 実習の内容及び心得等
 - (2) 実習記録の書き方
 - (3) 学習指導案の作成
 - (4) 模擬授業の実施

2. 事後指導

(1) 実習報告会

(2) 実習体験レポート提出

教育実習校の決定後はその変更はできません。また教育の基礎的理解に関する科目等が4単位以上不合格の場合は、実習が認められないことがあります。

実習にあたっては、本学及び実習校の指示に従わなくてはなりません。もしもその指示に反した場合には、実習を中止させられることがあります。教育実習を履修する学生は、教育実習に必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。

2) 教員免許状の授与申請について

1. 介護等の体験

中学校の教員免許状の授与を受けようとする者は、特別支援学校及び社会福祉施設等その他文部科学省令で定められた施設において7日以上障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行い、その証明書が必要です。

介護等の体験を希望する者は、体験の事前事後指導を受けるとともに、介護等の体験にかかる諸経費を期間内に納めなくてはなりません。

2. 申請手続

教員免許状は、本学で一括して申請し、卒業式当日に渡します。申請に必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。

〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕

所要資格の取得には、免許状の種類にかかわらず、表1に掲げる科目及び単位数を修得しなければなりません。

(表1)

| 免許法施行規則第66条の6に定める科目区分 | | 開設授業科目 | 単位数 | | 備考 |
|-----------------------|--------------------------------|--|------------------|---|----|
| 科目 | 単位数 | | 必 | 選 | |
| 日本国憲法 | 2 | 日本国憲法 | 2 | | |
| 体育 | 2 | スポーツ1 スポーツ2 | 1 1 | | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | Basic English 1 Basic English 2 総合英語A-1 総合英語A-2 | 1 1 1 1 | | |
| 情報機器の操作 | 2 | 情報処理演習1 情報処理演習2 | 1 1 | | |
| 備考 | 各科目区分における開設科目をそれぞれ2単位以上修得すること。 | | | | |

中一種免・高一種免(家庭)

(表2)

教員免許状
取得のための
教科及び教科の指導法に関する科目

| 免許法施行規則に定める科目区分 | | | 中学校教諭一種免許状 | | | | 高等学校教諭一種免許状 | | | |
|------------------------------|-------|-------|---|---------------------------------|--------|----|--|---------------------------------|--------|----|
| 科 目 | 単位数 | | 開設授業科目 | 単位数 | | 備考 | 開設授業科目 | 単位数 | | 備考 |
| | 中一種 | 高一種 | | 必 | 選 | | | 必 | 選 | |
| 家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む。) | 1単位以上 | | 家族関係学 家庭経済学 消費生活論 | 2 2 2 | | | 家族関係学 家庭経済学 消費生活論 | 2 2 2 | | |
| 被服学 (被服製作実習を含む。) | 1単位以上 | | 衣生活論 衣環境学 被服科学 被服構成実習1 被服構成実習2 被服整理学 被服構成学 | 2 2 2 1 1 2 2 | 2 2 | | 衣生活論 衣環境学 被服科学 被服構成実習1 被服構成実習2 被服整理学 被服構成学 | 2 2 2 1 1 2 2 | 2 2 | |
| 食物学 (栄養学、食品学及び調理実習を含む。) | 1単位以上 | | 食生活論 食品学総論 栄養学 調理学実習1 調理学実習2 調理学 | 2 2 2 1 1 2 | 2 1 | | 食生活論 食品学総論 栄養学 調理学実習1 調理学実習2 調理学 | 2 2 2 1 1 2 | 2 1 | |
| 住居学 (製図を含む。) | 1単位以上 | | 住居学(製図を含む) 住生活論 建築基礎製図1 建築基礎製図2 住居管理学 | 2 2 1 1 2 | 1 1 | | 住居学(製図を含む) 住生活論 建築基礎製図1 建築基礎製図2 住居管理学 | 2 2 1 1 2 | 1 1 | |
| 保育学 (実習及び家庭看護を含む。) | 1単位以上 | | 保育学 (実習及び家庭看護を含む) | 2 | | | 保育学 (実習及び家庭看護を含む) | 2 | | |
| 家庭電気・家庭機械・情報処理 | | 1単位以上 | | | | | 生活工学(家庭電気・機械を含む) 情報処理概論 | 2 2 | | |
| 各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。) | 8単位以上 | 4単位以上 | 家庭科教育法1 家庭科教育法2 家庭科教育法3 家庭科教育法4 家庭科実習指導技術 家庭科A・L指導技術 | 2 2 2 2 2 2 | 2 2 | | 家庭科教育法1 家庭科教育法2 家庭科実習指導技術 家庭科A・L指導技術 | 2 2 2 2 | | |
| 合 計 | 28単位 | 24単位 | 必修を含めて 28単位以上修得のこと。 | | | | 必修を含めて 32単位以上修得のこと。 | | | |

〔大学が独自に設定する科目〕

生活環境学科

中一種免・高一種免

(表3)

| 免許法施行規則に定める科目区分 | | | 中学校教諭一種免許状 | | | 高等学校教諭一種免許状 | | | | |
|-----------------|-----|------|--|-----|---|-------------|--------|-----|---|----|
| 科 目 | 単位数 | | 開設授業科目 | 単位数 | | 備考 | 開設授業科目 | 単位数 | | 備考 |
| | 中一種 | 高一種 | | 必 | 選 | | | 必 | 選 | |
| 大学が独自に設定する科目 | 4単位 | 12単位 | <p>「大学が独自に設定する科目」は、最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の合計単位数でもって充足されます。</p> <p>したがって、</p> <p><u>「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、中一種、高一種ともに、合計59単位以上修得しなければなりません。</u></p> | | | | | | | |

中一種免・高一種免

(表4)

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | | 中学校教諭一種免許状 | | | 高等学校教諭一種免許状 | | | | | |
|-------------------------------------|---|----------|------------|---------------------|-----|-------------|--------------------|---------------------|-----|---|----|
| 科目 | 各科目に含める 必要事項 | 単位数 | | 開設授業科目 | 単位数 | | 備考 | 開設授業科目 | 単位数 | | 備考 |
| | | 中一種 | 高一種 | | 必 | 選 | | | 必 | 選 | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> •教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 •教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む) •教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) •幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 •特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 •教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) | 10単位 | | 教育原理 | 2 | | | 教育原理 | 2 | | |
| | | | | 教育史 | | 2 | | 教育史 | | 2 | |
| | | | | 教師論 | 2 | | | 教師論 | 2 | | |
| | | | | 教育制度論 | 2 | | | 教育制度論 | 2 | | |
| | | | | 教育心理学 | 2 | | | 教育心理学 | 2 | | |
| | | | | 特別支援教育論 | 2 | | | 特別支援教育論 | 2 | | |
| | | | | 教育課程論 | 2 | | | 教育課程論 | 2 | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> •道徳の理論及び方法 •総合的な学習の時間の指導法 •特別活動の指導法 •教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) •生徒指導の理論及び方法 •進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 •教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 | 10単位 8単位 | | 道徳の指導法 | 2 | | 中免のみ | | | | |
| | | | | 総合的な学習の時間の指導法 | 2 | | | 総合的な学習の時間の指導法 | 2 | | |
| | | | | 特別活動の指導法 | 2 | | | 特別活動の指導法 | 2 | | |
| | | | | 教育の方法と技術 | 2 | | | 教育の方法と技術 | 2 | | |
| | | | | 生徒指導の理論と方法(進路指導を含む) | 2 | | | 生徒指導の理論と方法(進路指導を含む) | 2 | | |
| | | | | 教育相談(カウンセリングを含む) | 2 | | | 教育相談(カウンセリングを含む) | 2 | | |
| 科目 教育実践に関する | <ul style="list-style-type: none"> •教育実習 •教職実践演習 | 7単位 5単位 | | 教育実習1 | 2 | | | 教育実習1 | 2 | | |
| | | | | 教育実習2 | 2 | | 中免のみ | | | | |
| | | | | 教育実習指導 | 1 | | | 教育実習指導 | 1 | | |
| | | | | 教職実践演習(中・高) | 2 | | | 教職実践演習(中・高) | 2 | | |
| 合計 | | 27単位 | 23単位 | 必修を含めて31単位以上修得のこと。 | | | 必修を含めて27単位以上修得のこと。 | | | | |

V. 海外留学

「留学」について

- 1) 外国の大学や、それに相当する高等教育機関に学ぶことを希望し、所定の手続きをして教授会で許可されれば、本学に在籍したまま留学することができます。
- 2) 留学には、次の2種類があります。
 - ① 本学と留学協定を結んだ大学への留学(=協定留学)
 - ② 学長が認めたその他の大学・高等教育機関への留学(=認定留学)
- 3) 本学の留学制度の主な点の概要は次のとおりですが、詳しいことは学科の先生か、海外交流室に尋ねてください。海外交流室がおこなう留学説明会で話を聞くこともできます。

〈留学の資格〉

本学に1年以上在学し、教授会が定める所定の単位数を修得した者

〈留学期間〉

1年以内(ただし、特に必要と認められれば1年以内に限って延長できるが、修業年限に算入できるのは1年が限度)。

〈出願手続き〉

「留学願」は必要書類とともに、定められた期間に海外交流室に提出してください。

〈単位の認定〉

留学先で取得した授業科目の単位は60単位を上限として、本学で取得した単位として認められます。単位の認定を希望する場合は、留学前に学科の先生に相談して指導を受けてください。

〈留学中の納付金と助成〉

別に定めがあります。

- 4) 留学を実現するまでには入念な準備が必要です。留学を考えるにあたって、次のことをしっかり考えてください。
 - ① 何を勉強したいのか。
将来の目標も含めてじっくり考え、その目標達成のために、留学が最も適切な選択かどうかを見きわめます。
 - ② どの国の、どんな学校で学びたいか。
自分に適した留学先、学校(大学、短期大学、語学学校、専門学校)を、履修したい科目や必要経費のことなども含めて検討してください。
 - ③ 何年次の、いつからいつまでの留学か。
 - ④ 留学に必要な語学力・学力を備えているか。
 - ⑤ 留学費用の資金計画は十分か。

VI. 履修の案内

1. 履修登録について

履修登録

みなさんは、自己の責任において、履修すべき授業科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければなりません。登録を怠れば、当該年度における授業科目の履修の権利を放棄したことになります。

1. 履修登録は、年1回4月に行います。

各年度の履修登録に関しては、別途配付する「ポータルサイト操作マニュアル」にしたがってください。

2. 「履修確認」画面で必ず履修内容を確認してください。履修登録(後期科目)の修正が必要となった場合、後期登録修正期間内に修正を行うことができます。

1) 後期登録修正(9月): 対象は後期科目のみです。

履修登録の留意点

1. 「授業計画(シラバス)」を熟読し、卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、履修計画を立ててください。

(注) 履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合は、GPAに影響しますので注意してください。

2. 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。

3. 登録ミス、登録漏れのないように注意して登録してください。

4. 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ず受講可能か確認してください。

[ポータルサイトURL] <https://portal.nagoya-wu.ac.jp/campusweb/top.do>

5. 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。

6. 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。

履修登録の上限設定

各学期・年間の履修登録をする際に、登録科目数(単位数)の上限を設定しています。履修登録科目数(単位数)の上限を設定することをCAP制といいます。

登録科目数(単位数)の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1単位を取得するにあたって必要な学修時間45時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

上限単位数の設定は、学科、学年により多少の違いがありますが、以下のとおりです。

| 学部 | 学科 | 履修科目の上限単位数 | | | | | | | |
|------|--------|------------|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 家政学部 | 生活環境学科 | 27 | 23 | 23 | 23 | 24 | 17 | 17 | 13 |

1. 上限単位数から除外する科目等

(1) 全学共通科目: 「初年次セミナー」「初年次演習」

(2) 「大学、短大以外の教育施設等における学修」及び「入学前の既修得単位」の認定単位

(3) 生活環境学科: 「建学のこころ」「異文化コミュニケーション」「卒業研究」教職に関する科目

2. 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目および名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。

3. 特に必要と学長が認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。
4. 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。
なお、年間で上限単位を定めている場合の、前期、後期ごとの履修単位数の配分については弾力的に扱います。学科の履修指導に従ってください。

1. 特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、「特別履修届」を学生支援センターへ提出する必要があります。「特別履修届」は、学生支援センターにあります。

- ① 全学共通科目[必修科目]を他学科で下級履修する場合
- ② 全学共通科目(外国語科目)を他学科で履修(あるいは下級履修)する場合
- ③ 専門科目を他クラスで履修(あるいは下級履修)する場合
- ④ 振替を要する科目を履修する場合

2. 資格・免許の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録を履修登録期間中に履修登録画面の「資格申請」から必ず行ってください。また、登録した資格・免許を取り消す場合は、「免許・資格取消申請書」を提出してください。

申請書は、学生支援センターにあります。

2. 授業及び試験について

授 業

〔1〕 授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講………1年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講………前期あるいは後期の半年間原則として授業が行われます。
- 3) 集中講義………上記の通年または半期科目が、教育上特別の必要があると認められる科目、あるいは特別の事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間集中的に行われます。

〔2〕 授業時間割

学生ポータルサイトで確認ができます。また、学生支援センター前ホール掲示板にも掲示します。(事情により授業時間割・教室を変更したときも学生ポータルサイト(教務掲示一覧)と掲示板でお知らせします。)

〔3〕 授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

| | | | |
|-------|-------------|--------|-------------|
| 1・2限 | 9：00～10：30 | 1・2・3限 | 9：00～11：20 |
| 3・4限 | 10：40～12：10 | 2・3・4限 | 9：50～12：10 |
| 5・6限 | 13：00～14：30 | 5・6・7限 | 13：00～15：20 |
| 7・8限 | 14：40～16：10 | 7・8・9限 | 14：40～17：00 |
| 9・10限 | 16：20～17：50 | | |

〔4〕 休 講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。
- 2) 休講掲示がなく、始業時間から30分以上経過しても授業担当教員が現れず、また何の連絡もない場合は学生支援センターに連絡をし、指示を受けてください。
- 3) 災害及び交通機関ストライキの場合
地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は、次のとおり取り扱います。

| 災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等 | | 発表・発令等の時間 | 本学の講ずる措置 |
|------------------------|---|------------------|----------------------------|
| 「南海トラフ地震臨時情報」の発表 | 「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」が発表された場合 | 発表時 | 発表以降、大学から授業、試験再開の連絡があるまで休講 |
| | 南海トラフ地震臨時情報の「調査中」、「調査終了」、「巨大地震注意」が発表された場合であっても、平常通り授業、試験を実施します。 | | |
| 「特別警報」または「暴風警報」の発令 | 名古屋市に発令された場合 | 午前6時現在発令されている場合 | 午前中休講 |
| | | 午前10時現在発令されている場合 | 全日休講 |

| | | | |
|---|---|------------------------|-------|
| 交通ストライキ | 名古屋市営の交通機関、名鉄、JRのいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合(その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する) | 午前6時現在 ストが継続している場合 | 午前中休講 |
| | | 午前10時現在 ストが継続している場合 | 全日休講 |
| 上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想される場合は、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。 | | | |

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。(授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センターで必要な手続きをすることにより欠席とはみなしません。)

- ① 名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ② 災害等により、交通機関が不通になった場合
- ③ 上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～③により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センターで所定の手続きをすれば、追試験が受験できます。

〔5〕補講

休講のため規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次の方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は『Handbook(学生手帳)』で確認してください。
- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。

※ 学生ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。また、メッセージ転送設定を設定すると登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法は、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

〔6〕欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは次のとおりです。
 - ① 授業開始時間に遅れた者は遅刻として取り扱います。
 - ② 授業終了まで受講していない者は早退として取り扱います。
 - ③ 遅刻及び早退は計3回をもって欠席1回とみなします。
 - ④ 1回の授業時間の3分の1以上(講義・演習科目は30分以上、実験・実習科目は45分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

試験

〔1〕試験の種類と方法

試験の種類は、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

〔2〕 期末試験

- 1) 期末試験は、前期末に行うものを前期試験、後期末に行うものを後期試験といいます。
- 2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

〔3〕 追試験

- 1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。
 - ① 期末試験を実施した授業科目
 - ② 期末試験に代えて授業担当教員が随時に行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目
- 2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。
- 3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。
- 4) 追試験の受験は、欠席理由が以下のいずれかに該当し、当該理由を証明するに足る書類が提出され、教授会が許可した者について認められます。

〔4〕 やむを得ない理由を証明する書類

| | 欠 席 理 由 | 提 出 書 類 |
|---|------------------|----------------|
| ① | 親族の危篤、死亡 | 理由を証明する書類または写し |
| ② | 不慮の事故または災害 | 事故等を証明する書類 |
| ③ | 病気または負傷 | 医療機関発行の診断書 |
| ④ | 公共交通機関の事故または遅延 | 事故又は遅延証明書 |
| ⑤ | 教育実習、介護等体験 | 証明書不要 |
| ⑥ | 就職試験(会社訪問は除く)の受験 | 本学所定の受験証明書 |
| ⑦ | 期末試験受験科目の実施日時の重複 | 本学所定の試験重複届 |
| ⑧ | その他本学が認めた場合 | 理由を証明する書類 |

〔5〕 再試験

- 1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期および通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。
なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。
- 2) 願い出が遅れた場合は受験資格はありません。
- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験・再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目および免許・資格(教員免許状)の取得要件科目の場合は、前・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。
- 4) 校外学習(教育実習)が不合格となった場合の再試験は実施しません。

〔6〕追・再試験手続一覧

| | 追 試 験 | | 再 試 験 |
|-------|--|-----------------------|-----------------------|
| | 受験を希望する者 | 受験を許可された者 | |
| 提出書類 | 試験欠席届+証明書類 | 追試験申込書+追試験願出票 | 再試験申込書+再試験願出票 |
| 提出期限 | 指定された期日 (詳細日程は別途連絡) | 所定の期間内 (詳細日程は別途連絡) | 所定の期間内 (詳細日程は別途連絡) |
| 出願科目数 | 上限なし | | 上限なし |
| 提出先 | 学生支援センター | | 学生支援センター |
| 受験手数料 | 1科目につき1,000円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要) | | 1科目につき2,000円 |

〔7〕受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない授業科目。
- 2) 当該授業科目の規定授業時間数(半期7.5回、15回、通年30回)の3分の2以上出席していない者。
- 3) 学生証を所持していない者。
- 4) 試験開始後15分以上遅刻した者。
- 5) その他、教授会において受験資格がないと認められた場合。

〔8〕受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

〈受験態度〉

受験の際は、終始公正な態度を保ち、いささかでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

〈監督者の指示の遵守〉

試験室においては、常に監督者の指示に従う。

指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

〈学生証の提示〉

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机の上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターに申し出て、証明書自動発行機で仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料1,000円が必要となる。また、学生証を紛失した場合は願い出れば、翌日の午前9時には再発行される。

〈不正行為〉

試験において万一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第46条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

〈所持品の扱い〉

試験中は学生証、筆記用具(特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ)、監督者が許可したもの以外は机の上に置かない。

その他の手荷物も机の中に入れておかないで、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

〈参照許可物件〉

問題用紙に参照許可物件（テキスト、ノート、辞書等）が明示されている場合のみ、参照が許可される。

〈遅刻〉

遅刻は試験開始後15分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。

なお、遅刻により受験できなかった科目は失格となる。

〈退室〉

試験開始後30分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

〈再入室の禁止〉

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

〈答案用紙〉

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや白紙のものも提出する。

3. 成績について

〔1〕成績の評価・単位の認定

授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、S、A、B、C、不とし、C以上を合格として当該授業科目の単位を認定する。

ただし、当該学期学費未納者については、学費完納まで単位認定を保留する。

なお、100点満点に換算した点数の評価基準は、次のとおりとする。

成績評価基準

| | | (追試験) | | (再試験) | | |
|--|----------|------------------------------------|-----|----------|---|---------|
| 合格 | 100点～90点 | S | 合格 | 100点～90点 | S | } 単位認定 |
| | 89点～80点 | A | | 89点～80点 | A | |
| | 79点～70点 | B | | 79点～70点 | B | |
| | 69点～60点 | C | | 69点～60点 | C | |
| 不合格 <small>(レポート、作品等により試験を実施した科目で再試験を実施しない場合)</small> | 60点未満 | 不 | 不合格 | 60点未満 | 不 | } 単位不認定 |
| | | 欠席 | 欠席 | | 不 | |
| 不合格 (再試験) | 60点未満 | 再 | | | | |
| 欠席 <small>(レポート、作品等により試験を実施した科目は該当しない)</small> | | 欠 | | | | |
| 失格 | 失 | 受験資格喪失(原則として規定授業時間数の2/3以上出席していない者) | | | | |
| 認定単位 | 認 | 他の大学等において修得した単位、編入学生等の認定単位 | | | | |

※卒業年次学生を対象とする。

〔2〕成績の通知

期末試験及び追・再試験の結果は、各学期の成績発表日に学生ポータルサイトの成績照会で各自確認してください。既修得単位科目の成績(成績の累算)も成績照会で確認できます。

ただし、卒業学年には各学期の成績発表日に成績通知表を配付します。

〔3〕成績の問い合わせ

成績についての質問がある場合は、成績発表後3日以内(土・日・祝日除く)に学生支援センターに申し出て、「成績評価についての質問」に記入し提出してください。

4. GPAについて

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。GPAを知ることで、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画が適切にたてられます。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA 評価平均が下位25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準

〔1〕 GP（グレード・ポイント）

最終成績評価（S：4、A：3、B：2、C：1、不認定：0、失格：0、認定：-）

〔2〕 不合格科目等の取り扱い

成績評価が不合格の科目、失格となった科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外になります。

〔3〕 GPAの算出式

各科目の成績評価を成績値（GP）に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

5. 単位互換制度について

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

〔1〕名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位取得が可能です。学生は、下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

(1) 名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

| 授 業 科 目 | 授 業 形 態 | 単 位 数 |
|---------------|---------|-------|
| 生 活 マ ナ ー 演 習 | 演 習 | 1 |

(2) 履修対象者

1年生後期から2年生の学生

(3) 単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の単位互換科目の単位数として算入されます。

(4) 履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センターへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4月第2木曜日まで 後期科目：9月第2木曜日まで

〔2〕愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位取得が可能です。詳しくは、学生支援センター前ホール掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認して手続きしてください。

教務関係の用語

お オムニバス
複数の教員が授業内容を分担して受け持つ方式のことです。

か 下級履修
下級学年に担当されている授業科目を履修することです。

科目等履修生制度

資格取得等のために必要でありながら、在学中に履修しなかった(できなかった)、あるいは単位を認定されなかった科目を、卒業後に履修して単位を修得できる制度のことです。

き 期末試験
学期末に行われる試験のことです。

CAP制

各学期・年間の履修登録科目数(単位数)の上限を設定する制度のことです。

休学

病気等により一定期間授業を受けない状態のことです。休学するには所定の書式で届け出る必要があります。

休講

学校行事や授業担当教員の都合により、授業が行われないことです。

教育課程(カリキュラム)

教育の目的や目標を達成するため、どのような教育内容(授業科目)を、どれだけ(単位数)、どのような方法(必修・選択の別、担当する学年、授業期間・方法等)で教授するかを計画したものです。

け 欠席
やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。

さ 在学
本学の学生として、現に学修している(授業を受けている)状態のことです。

再試験

試験を受験し、不合格となった科目について、再度実施する試験のことです。

再履修

不合格となった科目を再度履修することです。合格して単位を認定された科目を再履修することはありません。

し GPA

Grade Point Average(グレード・ポイント・アベレージ)の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント(GP×単位数)の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。

失格（受験資格喪失）

当該授業科目の規定授業時間数（半期7.5回、15回、通年30回）の2／3以上出席しないと失格になり、試験が受けられません。

授業計画（シラバス）

授業内容の概要を記載したもので、履修登録をする際には必ず熟読してください。講義概要、講義要項などと呼ばれることもあります。一般的に授業科目名、担当者名、授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、学習上の留意事項、授業外学習の指示、成績評価基準、テキスト、参考書、その他受講に際して必要な事項が記されています。

授業形態

授業実施方法のことで、次の5つに分けられます。

- 1) 講義 …… 教員が学生に対し、説明することを主として知識を授ける授業方法のことです。
- 2) 演習 …… 教員の講義とともに、学生も討議・発表等を行いつつ指導を受ける授業方法のことです。
- 3) 実験 …… 理論や推論が正しいかどうかを、一定の条件で試してみる授業方法のことです。
- 4) 実習 …… 実地について学習する授業方法のことです。
- 5) 実技 …… 実際に身体を用いて行う授業方法のことです。

開講時期・期間で区分すると、次の3つになります。

- 1) 通年 …… 1年間、毎週授業が行われます。
- 2) 半期 …… 前期あるいは後期の半年間、毎週授業が行われます。
- 3) 集中 …… 休業期間中などに、短期間（3～6日間程度）で授業が行われます。

除籍

学費未納等の理由により、遡って在籍していなかったものとみなされることです。

せ 成績評価

単位を授与する際の基準と表記方法を示すものです。本学では、試験成績と平常成績を総合して判定し、90点以上をS，80点～89点をA，70点～79点をB，60点～69点をC，60点未満を不と表記することにしています。

選択科目

履修する、しないを自由に決められる科目のことです。

選択必修科目

複数の科目のうちから、1科目あるいは複数の科目を選んで単位を修得しなければならない科目のことです。未修得の場合は卒業が認められません。

そ 卒業要件

卒業に必要な条件のことです。次の2つをともに満たさなければいけません。

- 1) 4年以上在学していること。休学の期間は含まれません。
- 2) 学科の課程を修了するのに必要な単位数を修得していること。

た 退学

卒業前に、病気・その他やむを得ない事情で大学を辞めることです。

単位

授業科目の内容に必要な学修量（時間）を示す基準のことです。所定の単位数を積み上げることにより、卒業できる制度のことを単位制といいます。

単位互換

協定を結んだ他大学の授業科目を履修し修得した単位を、本学の授業科目を履修し修得したものとみなすことができる制度のことです。

単位の認定

本学では、成績評価がS，A，B，Cの場合、これを合格として単位を認定します。それ以外は不合格ですので、単位は認定されません。

つ 追試験

病気等やむを得ない事由により、試験を受験できなかった者に対して実施する試験のことです。

ひ 必修科目

必ず単位を修得しなければならない科目のことです。たとえ1科目でも未修得の科目があれば、卒業が認められません。

ふ 復学

休学者が大学に復帰することです。

へ 編入学

異なる制度の学校から第1学年の途中または第2学年以上に入学することをいいますが、短期大学を卒業して、大学の第3年次に入学するケースが一般的です。

ほ 補講

休講により生じた授業時間数の不足を補うために実施される授業のことですが、休講がない場合でも、授業の進み具合によって実施されることがあります。

り 履修

授業を受けて学修することです。

履修登録

どの授業科目を履修するか意思表示を行うことです。